

道路事業における自然分野の環境保全措置の効果把握と効率化



(研究期間：平成26年度～平成30年度)

道路環境研究室 室長 間瀬 利明
 主任研究官 大城 温 研究官 長濱 庸介 道路防炎研究官 井上 隆司

(キーワード) 道路事業、環境保全措置、キンラン属

4.

地域創生・暮らしやすさの向上

1. はじめに

道路事業における自然分野の環境保全措置は希少種の情報を含むため、盗掘や密猟防止の観点等から詳細な内容が公開されにくく、また事業者間での情報共有が難しい。したがって、現場ごとに保全措置の必要な範囲や効果的な手法を模索しているのが現状である。そのため、これらを整理し事業者間で共有することで、保全措置の効率化や簡素化等を図ることが期待できる。

そこで、道路事業における自然環境分野の保全技術の向上及び合理化を目的として、道路事業において遭遇頻度が高く、移植事例は多いが移植に困難を伴うキンラン属を対象に、効果的・効率的な保全技術を検討するための実証試験を実施した。

2. キンラン属の保全技術の検討に向けた実証試験

キンラン属(写真-1)は、明るい林床を好む里山を代表する絶滅のおそれのある植物である。本実証試験では、既存の取り組み事例や研究事例等も参考にしつつ、「①株移植試験」、「②播種試験」及び「③林床管理試験」を実施した(図-1)。

その結果、①ではキンランの根を傷めない移植手法(ポイド管を用いた方法や根鉢の掘り取りによる方法等)について把握することができた。②では種子の採取方法、株移植に適した場所の探索方法、効果的な播種の方法等について把握することができた。③では生育環境を改善し株数を増加させる手法として、下草刈りや落ち葉かきを継続して実施することが望ましいことが確認できた。

3. まとめ

実証試験で得た知見及び既存の取り組み事例や研究事例等から、現在、道路事業においてキンラン属の保全を実施するにあたり参考になると考えられる手法をとりまとめているところである。この結果は現場で保全措置を実施する際の参考として活用を図る予定である。



写真-1 キンラン属の例
(この他にサバギンランやケスマランも試験を実施)

 <p>① 株移植試験</p>	<p>■目的: 株移植が成功しやすい方法の検討(複数の手法を検討)</p> <p>■内容: 株移植の手順確認、根の広がり確認(掘り取りサイズの把握)、出現個体の確認</p>
 <p>② 播種試験</p>	<p>■目的: 株移植に適した場所の探索方法の検討、株移植ではなく種子による個体の保全方法の検討</p> <p>■内容: 播種による発芽状態の確認、出現個体の把握</p>
 <p>③ 林床管理試験</p>	<p>■目的: 生育環境の改善により株数を増やす方法の確立</p> <p>■内容: キンラン属が自生する箇所における下草刈りや落ち葉かきの実施、出現個体の確認</p>

図-1 キンラン属の保全技術の検討に向けた実証試験